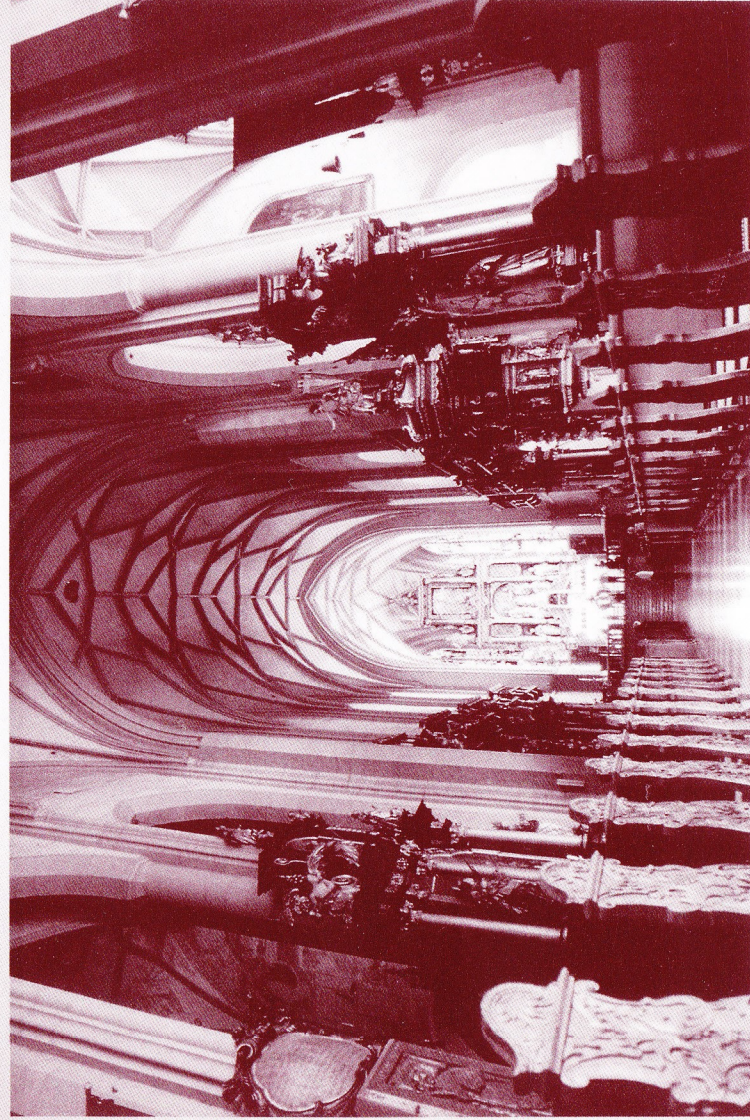


小田原男声合唱团 第33回定期演奏会



2004.11.13 (土) 午後4時30分 開演
小田原市民会館大ホール

主催
後援

小田原男声合唱团
小田原市教育委員会
日本男声合唱協会 (JAMCA)
神奈川男声合唱協会 (KAMCA)
湘南合唱連盟
小田原地区合唱連盟
小田原音楽連盟

本日は、ご多用中にもかかわらず、私たち小田原男声合唱団の第33回定期演奏会に大勢の皆様にご来場頂き、誠にありがとうございます。団員一同心よりお礼申し上げます。

本年もオダダンは1月2日に、恒例となりました箱根駅伝小田原中継所における「箱根駅伝応援歌」を演奏しての応援で幕を開けました。4月24日には小田原地下街特設会場で、小田原市主催の「街かどコンサート」に出演し、6月6日には海老名市文化会館で開催されました第53回湘南合唱祭に参加、そして圧巻は、7月18日にすみだトリフォニーホールで開催されました、日本男声合唱協会東京演奏会「EXCITING JAMCA IN TOKYO」であります。全国各地から男声合唱を愛する多くの仲間が一堂に会しての演奏会において、オダダンは所沢メーンホールをはじめ多くの合唱団とともに荒谷俊治先生の指揮、佐藤季里先生のオルガン伴奏によりグノー作曲「第二番ミサ曲」を演奏し、ご来場頂いた多くの聴衆の方々とともに感動を分かち合うことができました。10月17日、小田原市民会館で開催されました第38回小田原合唱祭に参加し、そして本日この第33回定期演奏会を開催する運びとなりました。

本日の定期演奏会におきましては、第1ステージでは作曲家松岡貴史先生の無伴奏男声合唱組曲「春夜に寄す」の初演をいたします。大変印象的な素晴らしい作品の初演という幸運に恵まれたわけですが、練習には初演ならではの苦労もありました。しかしながら、松岡貴史先生にはオダダンの練習に3度もお越し頂き、いわば産地直送とも言えるご指導を頂きました。素晴らしい作品の初演をさせていただきますこと、また丁寧なご指導を頂きましたことに、この紙面を借りまして厚くお礼申し上げます。第2ステージでは、古くから歌い継がれている日本の歌唱を、三善晃先生の編曲による「五つのルフラン」として演奏いたします。中国地方の子守歌、お菓子と娘、カチューシャの唄など懐かしい曲を、三善晃先生編曲の男声合唱曲により新鮮な気持ちでお聴きいただけたものと思えます。そして第3ステージは、先にも述べました日本男声合唱協会東京演奏会において演奏をいたしましたグノー作曲「第二番ミサ曲」であります。当団音楽監督兼常任指揮者外山浩爾の指揮、JAMCAでもお世話になりました佐藤季里先生のオルガン伴奏により、新たななる感動を皆様にお届けできるものと思っております。どうぞ私たちの1年間の練習の成果をお聴きいただきご批評いただければ幸いです。

さて、我が国の昨今の高齢化の進展は、社会保険制度の改革などいろいろな場面において対応を迫られております。私たちオダダンにおきましてもこの問題は例外ではなく、これから5年後、10年後を見据え、若手とベテランのバランスのとれた合唱団を目指し対応をしていく必要があります。どうぞ本日も来場の皆様（男性の方）で私たちと一緒に男声合唱をやろう！という方は、是非お気軽に練習会場にお越しください。お待ち申し上げます。私たちオダダンは、男声合唱に対する熱き情熱をもって、若々しい歌声をいつまでも奏でて参ります。これからも私たちが活動に対する暖かいご支援を心からお願ひ申し上げます。

プログラム

I 無伴奏男声合唱組曲「春夜に寄す」(初演) 北 杜夫 作詞/松岡 貴史 作曲
指揮 外山 浩爾

- 1 ひそかにひめし...
- 2 うすあおい岩かげ
- 3 訴 え
- 4 木 枯
- 5 春夜に寄す

II 男声合唱のための「五つのルフラン」

三善 晃 編曲
指揮 外山 浩爾

- | | |
|------------|-------------------------|
| 1 中国地方の子守歌 | 山田 耕作 作曲 |
| 2 お菓子と娘 | 西條 八十 作詞/橋本 国彦 作曲 |
| 3 カチューシャの唄 | 島村 抱月・相馬 御風 作詞/中山 晋平 作曲 |
| 4 鉾をおさめて | 時雨 音羽 作詞/中山 晋平 作曲 |
| 5 椰子の実 | 島崎 藤村 作詞/大中 寅二 作曲 |

—— 休憩 ——

III 「第二番ミサ曲」ト長調

シャルル・フランソワ・グノー 作曲
指揮 外山 浩爾
オルガン 佐藤 季里

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1 Kyrie | キリエ |
| 2 Gloria | グローリア |
| 3 Credo | クレード |
| 4 Sanctus | サンクトゥス |
| 5 O salutaris hostia | オ サルタリス オスティア |
| 6 Agnus Dei | アニユス デイ |

曲目解説

無伴奏男声合唱曲「春夜に寄す」

松岡 貴史

合唱曲の作曲は、自分で詩を書かない限り、作曲したい詩にめぐり会うことから始まる。探し続けて、キラリと出会ったのが北杜夫の青春詩集『うすあおい岩かげ』。高校の終わりから大学時代、ひたすらノートに記された詩ということである。自分に正直に、精いっぱい生きようとすればするほど、傷つき、壊れやすい心の内面。しかしそこから目をそらしたり自らをカムフラージュすることなく、自分らしくまっすぐに進んでいこうとするとところに陶酔や不安があり、ファンタジーの豊かさの中に「生きる」ということのアリテイがある。それが、美辞麗句や退廃的な語調に溺れることなく、生き言葉として伝わってくる。

こんな北青年の世界を、時代は変わっても変わらずぬ人の想いとして現代に重ね合わせ、痛みや軋みを感じつつも精いっぱい生きようとすると今日の夢多き青年たちに届けてあげたい。そしてまた、時を経た今、そうした自らの歩みをふと振り返る、青年の心をもった大人たちにも・・・。

作曲にあたっては、男声合唱の幅広さ、奥深さをもって、その切実な想い、真実の叫びが響き合うことに、心の底から興奮を覚えた。

1曲目「ひそかにひめし・・・」は、詩集『うすあおい岩かげ』の扉の詩。ユニゾンで歌われる。しなやかで、たおやかでさえあるが、「ひとり」という言葉が心細さの代名詞ではない。2曲目「うすあおい岩かげ」は、青くも、官能的なまでに濃密な抒情性。3曲目「詠え」は、青春の心の嵐、叫び。苦しさと強さ。4曲目「木枯」は、辛く厳しい外の世界や底知れぬ未知の世界を、人のぬくもりのある暖かい部屋からかいま見るメルヘン。終曲「春夜に寄す」は、人を想い、その痛みをも愛す抒情性の中に、ひとり想い、生きていることの、しなやかさと、たしかなさを感じさせる。

初演にあたり、指揮の外山浩爾先生と小田原男声合唱団の皆さんに、心から謝意を表したい。外山先生は、作曲家としての私をいつも暖かく見守ってくださり、今回の作品は、「男声合唱曲を書いてみないか。やるよ。」というお勤めに喜んでお応えし、生まれたものである。小田原男声合唱団の豊かな響き、すばらしいハーモニーによって命あるものになる。何と幸せなことか。《初演によせて》

男声合唱のための「五つのルフラン」

中高年の方々であれば、この組曲に納められている曲目を見て、懐かしさで胸が一杯になることだろう。「中国地方の子守歌」「お菓子と娘」「カチューシャの唄」「鉾をおさめて」「椰子の集」と、若かりし頃、だれものが口づさんだ往年の名曲が並んでいるからだ。

これらの名曲を、法政大学アリオコンールの委託に基づき、『五つのルフラン』(ルフランとは「くりかえし」の意味)と名付けて組曲にしたのが作曲家の三善晃である。

この組曲は 1977 年 5 月に東京文化会館で開催された第 26 回東京六大学合唱連盟定期演奏会で初演されたが、正式な楽譜化に際して三善晃は次のように編曲動機を述べている。

「愛唱歌の編曲とは(中略)、一人の日本人の言葉としての日本語を顕現させることだと私は思っています。そうであれば『ルフラン』は、まず、私の言葉であり、言葉であればそれは、誰かに対しての、誰かのための私の心の表現です。この『ルフラン』を歌ってくださる方々を通してその誰かと、出遇えることが、私の希いです」と。

近年、歌の言葉が痩せ細っているような気がする。叙情性が失われ、言葉の余韻、詩性がないうがしろにされている。

そんな現代にあって、日本語の本来の美しさを男声合唱という手法で表現した三善晃の意図が、私たちの歌声を通じて、皆様の胸に届けば幸いである。

(見尾田 博樹)

作家で小田男団員の
ひろたみを氏
(本名見尾田博樹)
こだわりの店

旬の味
くつろぎ処

『四季彩菜』

旬の食彩を用いたおいしい家庭料理と、北海道から直送された山海の珍味を提供する和食の店です。
家庭惣菜、手作り干物、創作和食、陶板料理など多種多彩。クラシックが流れる小粋な雰囲気。

大人のくつろぎ処としてご利用ください。

営業時間 平日 PM5:00~11:00

土休日 PM4:30~11:00

定休日 毎週火曜日・第1・第3月曜日

小田原東口 おしゃれ横丁 ホテルとさん前
〒250-0011 小田原市栄町 2-2-9

電話&FAX 0465-22-7668

「第二番ミサ曲」ト長調 シヤルル・フランソワ
・グノー作曲

グノーは19世紀に活躍したフランスの作曲家だが、彼の名を聞いてグランド・オペラ「ファウスト」や、「アベエ・マリア」、「セレナード」の作品を思い浮かべる人が多いだろう。またそれだけの作品を残した人だから、世界的評価も高いと想いが当然のところだが、残念ながら、その偉業のわりには、音楽史における評価は決して高くはない。

それというのも、パリの音楽院の院長やノートルダム・シャルトル大聖堂のオルガニストなどを務めはしたものの、世俗的には小さな楽曲が成功しただけであり、同じフランスの作曲家であるベルリオーズやビゼーのごとき、歴史的大作を残していないからである。では彼は実力のない作曲家であったかといえ、それは違う。彼の本領は宗教音楽にあって、そこに本来の実力と才能を見ることができ、ベルリオーズ以降の流れにそったオーケストラと大合唱による手法を用い、卓越した宗教音楽の書法を駆使して、宗教的神秘性と官能性を融合させたスケールの大きい作品をいくつも創りだしている。

その意味において、彼はもつと評価されている作曲家であり、合唱を主体とした宗教音楽の発展に重要な役割を果たした作曲家として、記憶されるべき人物であろう。とはいっても、合唱の宗教曲は決して多くはない。

混声合唱用としては「ミサ・ソレニムス」ト長調、「聖チェチリアのミサ曲」などが知られているが、男声合唱用としてはオペラ「ファウスト」の「兵士の合唱」と、今回演奏する「第二番ミサ曲」の二曲のみ。しかし、どちらを聴いても（また歌っても）、彼

かに男声合唱の響鳴と機能に通じ、作曲に巧みであったかが理解できるし、またたった二曲ではないものの、良質な男声合唱用の宗教曲が少なくない現実にあつて、彼の作品はどれもきらめく光彩を放っている。

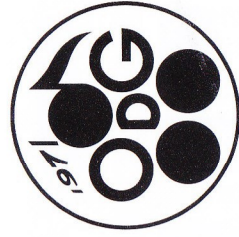
今回演奏する作品は、「シヤルル・グノー作曲オルガン伴奏(省略可能)つき男声四部のための合唱協会のために書かれた第二番ミサ曲・ト長調」という正式タイトルを見ても判るとおり、彼が会長を務めていたフランスの全国的な男声合唱運動の組織「レ・ソシエテ・ラコール」のために書いた二つのミサ曲のうちの二番目のものであるが、知っての通り、第一番は男声三部合唱ではあるものの、ハ長調にして、女声二部のオペリガートをもっている。

曲構成はミサ通常文にしたがつて、「キリエ」「グロリア」「クレード」「サンクトウス」「オ・サルタリス」「アニュス」の六章に三部分からなる「ドミネ・サルヴァム・ファク」が加わっているが、今回は全六章を演奏する。

曲は典型的なホモフォニー形式である。転調も自然な流れであり、本来は司祭が朗吟する「グロリア」の一句を合唱に託している点から見ても、典礼用として創られたミサ曲ではなく、当初から演奏会用と創られたことが伺い知れる。

このミサ曲の日本初演は、昭和10年に行なわれた関西学院グリークラブの演奏会であり、その後いくつもの合唱団で歌われたが、その多くはアメリカの出版社が発行する流布本をテキストにしていた。しかし当演奏会ではフランス・カルス出版の楽譜をもちいることにした。

(「EXCITING JAMCA IN TOKYO」プログラムより転載)



小田原男声合唱団 団員募集中

オダダンは、いつでも皆さまを歓迎いたします。下記練習日に直接会場にお越しただけか、事務局までご連絡下さい。心からお待ちしております。

練習日：毎週火曜 19:00-21:00、毎月 3 日曜 14:00-17:00

練習会場：郷土文化会館(小田原城址公園内、駅徒歩8分)

会費：入会金 ¥1,500、1ヶ月 ¥3,000

小田原男声合唱団事務局(井上楽器内)：

小田原市 栄町 1-13-36 (電話：0465-24-0515、FAX 0465-24-0711)

e-mail: Odadan@aol.com

オダダンの最新情報は
ホームページで：

<http://www.odadan.com>

プロフィール



外山 浩爾 (とやま こうじ)

音楽監督 常任指揮者

日本楽壇の功労者・外山国彦を父に、指揮者・外山雄三を兄にもつ音楽一門の出身。幼少より本格的な音楽教育を受け、東京芸術大学に入学、柴田睦陸、ウーファー・ペニヒ、リア・フォン・ヘッサート諸氏に師事し、卒業後直ちに同大学及び付属高校で教鞭をとる。その傍ら藤原歌劇団に参画し、「カルメン」を初めとして多くのオペラに出演した。東京芸術大学、鳴門教育大学において後進の指導に努めた功によって92年には文部大臣より教育功労表彰を受けた。96年に小田原男声合唱団の音楽監督・常任指揮者に就任、現在に至る。



佐藤 季里 (さとう きり)

オルガン

東京芸術大学附属高校を経て、同大学ピアノ科卒業。別科オルガン科終了。ピアノを故安川加寿子、梅谷進、パイプオルガンを島田麗子の各氏に師事。在学中よりアンサンブルピアノニストとして活動を始め、声楽、室内楽の伴奏、オペラ、合唱、バレエ等のコーチピアノニスト、また、オーケストラ、吹奏楽の鍵盤奏者として活躍中。ピアノ、パイプオルガンを共にこなすプレイヤーとして活発な演奏活動を展開している。現在、東京成徳大講師、MMC (Metropolitan Music Communications) 講師、海上自衛隊東京音楽隊講師、男声合唱団東京リーダーターフェル 1925 をはじめ、武蔵野市民合唱団、所沢混声合唱団他数多くの合唱団の常任・客演ピアノニストを務める。オーブニュニット Atelier "K" 主宰。

FUJIFILM

優れた録画性能を実現。富士ファイルのDVD きれい録りシリーズ。



ビデオ用 DVD-R 1~8倍速記録対応 VDRW120HK5 WT 8X



ビデオ用 DVD-RW 4倍速記録対応 VDRW120GX5 WT 4X



ビデオ用 DVD-RW 2~6倍速記録対応 VDRW120UX5 WT 6X



ビデオ用 DVD-RAM 2~6倍速記録対応 VDRM120UX5 WT 6X



ビデオ用 DVD+RW 1~4倍速記録対応 VD+RW120FX5 M 4X

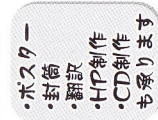


ビデオ用 DVD+RW 1~4倍速記録対応 VD+RW120FX5 M 4X

富士ファイルDVD「きれい録り」シリーズは、さまざまな記録速度に対応する多彩な製品をラインアップ。あらゆる録画ニーズにお応えいたします。

●あなたの録画・録音したものは、個人として楽しむのはもちろん、著作権者に無断で複製してはなりません。
●DVDのきれい録りシリーズの価格には、私的録音複製権金が含まれています。複製金は、著作権法で権利保護のため、著作権者に支払われることが定められています。私的録音複製権金のお問い合わせ先：(社)私的録音複製権金管理協会 TEL.03-3560-3107

富士写真ファイル株式会社 記録メディア事業部 営業部 〒106-8620 東京都港区西麻布2-26-30 <http://fujifilm.jp/>



「発送から納品の流れ」

お見積り

原稿の送付

制作

校正・手直し

印刷

納品

会社案内・チラシ・広告・各種パンフレットのデザイン・印刷ならおまかせ下さい。安価で迅速に対応いたします!

お問合せ
お申し込み

JIP ジェイ・アイ・プランニング 株式会社
〒258-0019 神奈川県足柄上郡大井町金子458
U R L : <http://www.jpccorp.com> E-mail : tabi@jpccorp.com

担当
瀬戸 石川
0120-14-2648
TEL : 0465-85-1600 FAX : 0465-85-1711

粉末団員の記

佐野 恵 (T1・岡山在住)

就職し大分県庁配属の時、「男声が足りない
ので手伝って」と混声のコーラス部に誘われたの
が合唱のスタートだった。このコーラス部の男声
有志で創った男声合唱団「豊声会」に参加させら
れ、以来断続的に「男声」の世界に身を置くこと
になる。最初はババトン、やがてセカンド、「第九」
をきっかけに高音が出るようになり以来トップを歌
うことになった。82年8月環境庁箱根事務所勤
務を機会に、初めて、「自分の意思」で「小田男」
に入団した。名前だけ知っていた福永先生に直
接ご指導を受けようとは夢のような話であった。

2年余りで85年4月に転勤になり退団。しかし
90年2月福永先生が逝去され、その年の定演が
追悼演奏会となり、井上さんからお誘いを受け参
加した。福永先生に呼び戻していたいたように
感じた。96年の25周年記念演奏会にもお誘いを
受け参加した。98年からは毎年の定演に岡山か
ら参加させていただき、今回で7年連続となった。
外山・桑原両先生はじめ、団の皆様のご厚情に
は、ただ感謝あるのみです。本当にありがとうございます。

岡山からこんなにも小田男に定着してしまっ
た経緯は語れば長くなるので別の機会にして
JAMCAの思い出に絞ることにする。

箱根在住時代は、84年2月名古屋に参加した
が、大学時代親しかった友人が夫婦で来てくれ
て、20年ぶりの再会で話がはずんだ楽しい思い
出がある。99年には岡山から近い高松での開催
であり、参加した。小田男は「今でも・・・ローゼキは
魔法の杖」を歌ったが、この曲あたりからステージ
でも余裕を持って楽しめるようになっていた。合
同曲の「グリークラブ愛唱歌」は本当に楽しかつ
た。大阪の知人が聴きにきてくれ「小田男は指揮
者が良いですね」と評してくれた。01年の金沢で
は小田男は「西湘の風雅」、合同曲が「学生王
子」であり、この原作の「アルト・ハイデルベルグ」
は高校時代の愛読書であり、懐かしく思い出され
た。大学時代の友人が聴きにきてくれ、翌日を
楽しく過ごした。今年の東京での「グノーの第二ミ
サ曲」はシューベルトやリストなど今まで歌ったミ
サ曲の中で一番気に入っている。小田男に入っ
て最初のステージで「グノーの聖チェチリアのミ
サ」を歌ったことも思い出される。

来年3月には65歳になり、退職となる。そう
なると東京に来る機会も減る事になり、ちよつと小田
男の定演もこれからは無理かなア-と思う。そんな
色んな意味で今年の「グノーの第二番ミサ曲」は
非常に大切な曲だと思っっている。精一杯、心を込
めて歌いたい。

小田原男声合唱団 2003-2005年の演奏会と今後のスケジュール

年月日	演奏会	場所	指揮	曲目
03.11. 8	第32回定期演奏会	小田原市民会館	有村祐輔 桑原正人	「マデトヤ男声合唱曲集」 「ルネサンス モテット集」「富士山」他
03.11.16	「箱根の秋」音楽祭	箱根町 仙石原文化センター	桑原正人 武藤英明	「日本抒情歌曲集」「西湘の風雅」
04. 1. 2	箱根駅伝応援	小田原中継所		「箱根駅伝応援歌」(石井歡)
04. 4.24	「街かどコンサート」	小田原駅前地下街	桑原正人	「からたちの花」「酒匂川」他 愛唱歌
04. 6. 6	第53回湘南合唱祭	海老名市文化会館	桑原正人	「中国地方の子守歌」「椰子の実」
04. 7.18	日本男声合唱協会 東京演奏会(第16回演奏会)	すみだトリアーホール	荒谷俊治 岩佐義彦	「第二番ミサ曲」(グノー) 「川の流れのように」他 一合同合唱
04.10.17	第38回小田原合唱祭	小田原市民会館	桑原正人	「お菓子と娘」「鉾をおさめて」
04.10.13	第33回定期演奏会	小田原市民会館	外山浩爾	「春夜に寄す」(松岡貴史) 「五つのルフラン」(三善晃) 「第二番ミサ曲」(グノー)、
05. 5.21	第6回神奈川男声合唱 協会演奏会	横須賀芸術劇場		「白き花鳥図」より 「月光とピエロ」一合同合唱
05. 6. 5	第54回湘南合唱祭	秦野市文化会館		
05.10. 9	第39回小田原合唱祭	小田原市民会館		
05.11.	第34回定期演奏会	小田原市民会館	外山浩爾	「白き花鳥図」「月光とピエロ」 「カンターテ・ドミノ」 他



オダダン・メンバー

T1: トップテナー

石田宏治 (秦野)
加藤治信 (厚木)
日置達男 (小田原)

T2: セカンドテナー

青野幸夫 (秦野)
杉本健二 (南足柄)
福嶋 修 (小田原)

B1: バリトン

青野正純 (小田原)
岡部仁之助 (秦野)
下村興毅 (小田原)
見尾田博樹 (小田原)

B2: ベース

赤川軍一 (伊勢原)
日下部暁 (平塚)
坂口宗夫 (小田原)
田島達也 (南足柄)
名倉英治 (平塚)

石山 誠 (藤沢)
佐野 恵 (岡山)
松田直隆 (山北)

木村敏明 (寒川)
須原清一 (南足柄)
李中 勉 (秦野)

伊東清邦 (秦野)
小澤 一 (小田原)
高橋茂樹 (小田原)
湯川裕光 (小田原)

一色義信 (秦野)
桑原敏雄 (大井)
下澤 孝 (小田原)
辻岡伸浩 (開成)
星野正博 (茅ヶ崎)

加藤重喜 (秦野)
諏訪部清 (中井)

佐藤精孝 (二宮)
坪井孝士 (南足柄)
藤本慎治 (秦野)

牛丸 紘一 (小田原)
柏木秀茂 (小田原)
西山隆行 (秦野)
山本信雄 (南足柄)

井上忠彦 (小田原)
古林源次郎 (二宮)
杉本英樹 (小田原)
豊田増穂 (小田原)
渡辺誠之 (小田原)

加藤 兀 (大磯)
西山廣木代 (二宮)

杉原由一 (南足柄)
福井 隆 (二宮)
山田允彦 (茅ヶ崎)

江川卓男 (鎌倉)
菊池義彦 (小田原)
松本和夫 (小田原)

江藤凱夫 (厚木)
近藤陽一郎 (大磯)
鈴木壽久 (南足柄)
原 誠 (南足柄)

小田原男声合唱団

音楽監督、常任指揮者
外山浩爾

団内指揮者 松本和夫
パートリーダー

T1 日置達男
T2 福嶋 修
B1 湯川裕光
B2 一色義信

運営スタッフ

團 長 一色義信
副團長 湯川裕光
技術部 日置達男
財政部 佐藤精孝
団員部 桑原敏雄
事業部 青野幸夫
渉外部 杉本健二
情報部 加藤重喜
事務局 見尾田博樹
会計監査 西山廣木代
田島達也

第33回定演スタッフ

委員長 青野幸夫
事務局 見尾田博樹
会計 佐藤精孝
西山廣木代
演出 辻岡伸浩
舞台監督 日置達男
招待状 斎藤恵司
プログラム 豊田増穂
見尾田博樹
福嶋 修
打ち上げ 湯川裕光
福井 隆

アポロピア

東洋ピアノ製造株式会社

スタインウェイ&サンズ 新品、中古
ペーゼンドルファー 新品、中古



井上楽器

小田原お堀端通り
TEL 24-0515

無伴奏男声合唱組曲「春夜に寄す」

ひそかにひめしむなうちの
かなしきことをよみあげし
いとしきうたはうつしよの
ひとになつげそほそほそと
ひとりやまじにくちずさむべし
おのずから ころなごまむ

うすあおい岩かげ

ものおともたえ
ひかりもまだらに
かぜもよどみきる
みしらぬうすあおい岩かげに
ひっそりといだきあい
ひとみにひとみを映(うつ)しては
とおい神話のなごりに酔い
ころのさびしさに燃えたつては
いたいいけな息のほめきに
ふと あらあらしく
つつましいくちびるをうばいたい

訴え

友よ、
莫々たる砂漠だ、
空は灰白の塗りつぶしだ、
大気は稀薄で湿度は零(ゼロ)だ。
月日がむなしく崩壊するうちに
僕はひとりで暮している。
今は観ることが辛いのだ、
聴くことが苦しいのだ、
閉ざしきつた心の底では
何かが歪んでむせんでいるのだ。
およそ投げやりやりの表現の裏には
臆病な吐息がつきものなのだ。
ああ、もつと、もつと、もつと、
冷たく荒みきって白々(しらじら)と
僕は自分を仕立てたい。
生半可な天使は虐殺したい。
友よ、
君だけは知ってくれるね、
この傲慢の寂しさを——。

木枯

木枯が吹いてるよ
木枯は冷たいの？
そう 木枯はきつと冷たいだろうね
—— 炭火が赤くて
—— 子供たちのほっぺたも赤くて
—— おじさんの鼻も赤くて

魔法使は空を飛んで行ったの？
箒に乗って飛んで行ったの？
そう 木枯のように飛んで行ったんだよ
魔法使いは焼けてしまったの？
魔法の箒も焼けてしまったの？
そう やっぱりボウボウと燃えてしまったのだよ

—— 炭火が赤くて
—— 子供たちのほっぺたも赤くて
—— おじさんの鼻も赤くて

木枯がまだ吹いてるよ
木枯はどうして冷たいの？
そう とにかく木枯はまだ吹いてるね

春夜に寄す

すべては 忘れはてるがよいと
思いつめた夜に 夢は ひそやかに
つづらひとみの 影を織った
またしても 痛々しく——
すなおな羞らいを つつんだまま
それでもあの日々は 昔となった
そこはかとなり ひとみばかりの ささやきに
なにかしら 想いをいっばいにして——
とおく離れ おたがいに 育つことが
別れることで あるにしろ
あのだまりこくった 雲のようなめぐりあいは
かえって 消えがたいしるしのように——
ひとりおもう 刻も 定めも
なにもかも これでよいのだと
忘れきれないものの哀しさが ひとよ
このように 澄みつくしているのなら——

グノー第二番ミサ

Kyrie — あわれみみの讃歌

主よ、あわれみたまえ。
キリストよ、あわれみたまえ。
主よ、あわれみたまえ。

Gloria — 栄光の讃歌

天のいと高きところには、神に栄光、
地には、善意の人に平和あれ。
われら主をほめ、主をたたえ、主をおがみ、
主をあがめ
主の大きいなる栄光のゆえに感謝したてまつる。
神なる主、天の王、全能の父なる神よ。
主なるおんひとり子、イエズス・キリストよ。
神なる主、神の小羊、父のみ子よ。
世の罪を除きたもう主よ、
われらをあわれみたまえ。
世の罪を除きたもう主よ、
われらの願いをききられたまえ。
父の右に座したもう主よ、
われらをあわれみたまえ。
主のみ聖なり、主のみ王なり、主のみいと高し、
イエズス・キリストよ。
聖霊とともに、父なる神の栄光のうちに。
アーメン。

Credo — 信仰宣言

われは信ず、唯一の神。
全能の父、天と地、
見ゆるもの、見えざるものすべての造り主を。
われは信ず、唯一の主、神のおんひとり子、
イエズス・キリストを
主は、よろず世のさきに父より生れ、
神よりの神、光よりの光、まことの神よりのまことの神、
造られずして生れ、父と一体なり、
すべては主によりて造られたり。
主は、われら人類のため、
またわれらの救いのために、

天より下り
聖霊によりて、処女マリアよりおんからだをうけ、
人となりたまえり。

ボンシオ・ピアトの下にて、
われらのために十字架につけられ、
苦しみをうけ、葬られたまえり。
聖書にありしごとく、三日目によみがえり、
天にのぼりて父の右に座したもう。
主は栄光のうちに再び来たり、
生ける人と死せる人とを裁きたもう、
主の国は終わることなし。
われは信ず、主なる聖霊、生命の与えぬしを、
聖霊は、父と子よりいで、
父と子とともに拝みあがめられ、
また預言者によりて語りたまえり。
われは、一・聖・公・使徒継承の教会を信じ、
罪の許しのためなる唯一の洗礼をみとめ、
死者のよみがえりと、
来世の生命とを待ち望む。
アーメン。

Sanctus — 感謝の讃歌

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、
万軍の神なる主。
主の栄光は天地にみつ。
天のいと高きところにホザンナ。

O Salutaris hostia — 救済となる犠牲

おお、魂の救済のための犠牲よ、
そは天国の門を開く。
われらを苦しめる敵と闘い、
われらに力を与え、
われらの援軍となりたまえ。

Agnus Dei — 平和の讃歌

神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、
われらをあわれみたまえ。
神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、
われらに平安を与えたまえ。